

第3回倉敷市下津井地区義務教育学校開校準備委員会 会議要旨

1 開催期日	令和6年11月19日(火)		
2 開会及び閉会時刻	開会時刻 18時30分 閉会時刻 19時50分		
3 場所	下津井公民館大会議室		
4 出席者	赤崎哲也	津田隆章	
	岩中正則	中桐陽子	
	木村恵子	早瀬徹	
	小西由紀	藤原祐輔	
	清水規彰	三宅武夫	
	田浦博		
5 会議に出席した事務局又は教育機関の職員の名 氏名			
職名	氏名	職名	氏名
参事	島田旭	課長	石岡与明
部長	根岸正治	課長	高木幸雄
次長	湯地嘉隆	室長補佐	山下貴弘
副参事	加藤圭二	主任	藤原義宜
副参事	石部圭一	主事	藤原健太
副参事	倉本英明		
6 傍聴の状況			
公開		傍聴人 0名	
会議録承認			
委員長 赤崎 哲也			

# 会 議 要 旨

## 1 開 会

<事務局>本日はお忙しい中、お集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

それでは定刻となりましたので、「第3回 倉敷市下津井地区義務教育学校開校準備委員会」を開催させていただきたいと思っております。

なお、お手元に当日配布資料としまして3枚ほどお配りさせていただいております。

まず、校歌の資料でございますが、楽譜を付けさせていただいております。

こちらは後程、最初の議題のところでご説明させていただきます。

2枚目、3枚目のカラーの資料は、グランドデザインという資料と総合的な学習の時間のイメージ図という資料でございますが、こちらにつきましては、次第「4 その他」のところでご報告等させていただきますので、よろしく願いいたします。

本日は、委員13名のうち、2名欠席でございますが、定数の半数以上の出席をいただいているため、会議は成立しております。

それでは、ここからの議事進行は委員長にお願いしたいと思っておりますが、まずは委員長から、一言あいさつをお願いしたいと思います。

委員長よろしく願いいたします。

<委員長>みなさん、こんばんは。

下津井中学校の赤崎です。

中学校では昨日、二期工期の打合せを行いました。

現在、校舎の外壁を中心に工事を行っていますが、その後、中のリフォームがいよいよ始まります。

最初に手掛けるのは、義務教育学校の魅力の一つであり、海に面したテラス席がある図書室からスタートしてもらい、徐々に教室に移っていきます。

それでは次第に沿って進めてまいります。

## 2 議 事

### (1) 校歌について(資料1)

<委員長>議事の1番、校歌について、事務局より説明をお願いします。

<事務局>～資料1の説明～

<委員長> それでは、まず歌詞の変更箇所について考えたいと思います。

事務局からの提案としては、変更は3番の「三年（みとせ）の」というところのみが良いということでしたが、この点については委員のみなさんはいかがでしょう。

—— 委員一同了承 ——

<委員長> それでは変更箇所は「三年（みとせ）の」のみということに決まりました。

次に「三年（みとせ）の」の部分をどのように変更するかについて、事務局から3案示されましたが、事務局が音源を準備していただいているということですので聞いてみたいと思います。

～～校歌 鑑賞（2回）～～

<委員長> ありがとうございます。

委員のみなさんいかがでしょうか。

ちなみに昨日、中学校で給食の時間に3回流し、中学生に「ちょっと口ずさんでみてよ」というふうをお願いいたしまして、担任の先生に1案、2案、3案、挙手をしてもらって確認をしました。

その結果、1案の「三年（みとせ）の」を「九年（くねん）の」に変えたらいいじゃないかというのは1人、他の全員が3案の「月日の」でございました。

「くねん」の「ん」で口を閉じるので歌いにくいという意見や、「星霜」は難しい、「月日の」が歌いやすいし、意味も小学生でも分かりやすいという意見がありました。これを踏まえて委員のみなさんいかがでしょうか。

<委員> 分かりやすそうだし、歌いやすそうです。

<委員> その通りと思います。

<委員長> 委員の皆様からの意見を踏まえますと、変更後の歌詞は「月日の」でよろしいでしょうか。

—— 委員一同了承 ——

<委員長> それでは、変更は「三年（みとせ）の」の部分を「月日の」にするということに決まりました。

#### 決定事項

○「三年（みとせ）の」を「月日の」に変更する。

<委員長> 事務局から補足等がありますでしょうか。

<事務局>本日、新設する義務教育学校の校歌が決定いたしましたので、事務局から作詞者の親族の方に、改めてお伝えをさせていただこうと考えております。

以上でございます。

## (2) 通学について(資料2・3)

<委員長>それでは、次の通学について事務局より説明をお願いします。

<事務局>～資料2・3の説明～

<委員長>先程説明がありましたが、今日はここで決定というわけではなく、皆様の声を集約したいと考えておりますのでよろしくお願ひいたします。

まずはたくさん保護者の声を聞いておられるであろう、校長先生からお願いしてもよろしいでしょうか。

<委員>いつもお世話になっております。

義務教育学校までの通学距離について、下津井西小学校のエリアでは通学距離が2倍になる児童もおり、保護者の方も「通学路はどうなるんだろう」と心配されている方もいらっしゃいます。

自分でも歩いたり、教頭と一緒に確認したりしていますけれども、学校としても安全面や子どもたちの体力的なことでは気になっていることがあるので、3点ほどこれからお伝えさせていただきます。

1つ目は、風の道についてです。

風の道を利用すると、古下津井とか才の峠から来る子どもたちは距離的に近くなりますが、資料の写真のように風の道には草が生い茂っており、道路状況が悪く、不審者とか野犬の心配がある区間が続きます。

車止めから車止めの300から400メートルくらいですが、猪が掘り返した跡や、岩が落ちてきた跡もあり、本当に見通しが悪く、<sup>ひとけ</sup>人気もなく、もし小学生に何かがあっても、民家に駆け込んだり、SOSを出したりしにくい状況であるため、安全面で問題があると思っています。

そのため、通学路としては考えにくいと考えております。

2つ目は、大室から通ってくる子どもたちについてです。

大室から登校する児童は、通学距離が4キロ以上という通学支援の基準には満たないですが、資料の青色で囲んでくださっている場所のように、峠の上り下りが厳し

く、どこを通過して通学しても地形的にアップダウンが多いため、大室から義務教育学校までの徒歩通学は小学生にとって体力的にかなり厳しいと感じています。

風の道が使えないとなると、才の峠や古下津井の子どもたちは遠くなる形で通学路が決められると思いますが、低学年はちょっと体力的にきついと思っています。

3つ目は、熱中症の心配についてです。

近年異常な気象が続いており、夏場における長い距離を歩いての登下校では熱中症の心配があり、特に低学年などは身長が低いいため、輻射熱の影響を受けやすいです。

この夏、下西小からの下校中、低学年の子が暑さでしんどいからこれ以上歩けないと学校に連絡が入り、学校から駆け付けるということが2回ほどありました。

気温が高い時の下校について、学校ではかなり気を使っている状況です。

安全面とか子どもの体力面について加味して検討していただけるとありがたいと思っています。

保護者の中には、学校までの距離が遠くなるということから、スクールバスが出るものと思われている方もいます。

通学距離に関する国の基準や市の基準については、まだ多くの方がご存じない状況だと思いますので、丁寧な説明が必要であると感じています。

そのため、実際に学校に通っている多くの児童の保護者の想いを聞き取っていかねばならないと思っています。

よろしくをお願いします。

<委員長>ありがとうございます。

他の委員のみなさんはいかがでしょう。

大島の方からありますでしょうか。

<委員>大島の方は聞いてないです。

西小に通っている親御さんは、西小の校長先生がおっしゃったように遠いと思いますし、特に大室は遠いと思います。

バスは出ないのか、出してもらえないのかというのは、聞くことがあります。

<委員>今、西小の校長先生が言われたように、大室や西の脇から小学校低学年の子が歩いて登下校するのは、かなりきついみたいで、保護者の方から通学バスが出るのではないかという話は聞いていますし、統廃合、学校の再編に伴う場合の配慮事項にあ

るように、通学支援について何か考えてやってほしいと思います。

早目に何らかの方法で通学支援をしますよというようなことを、確約とまではいかなくとも、何か表明してほしいというのは我々の気持ちです。

<委員>先程、校長先生も言われましたが、風の道は猪や犬の問題もあって、小さい子には厳しいかなという事はもちろんあります。

それだけでなく、町としては子どもの姿が見えて元気をもらえるということもあるので、できる限り町の中の道を通して子どもたちが登下校する状況が望ましいです。通学支援をすとしても、全員の送り迎えは現実的に厳しいと思うので、大室は最大1.8キロぐらいの距離に対して、反対側の大室は結構遠く、3.2キロもあるので、1.6キロぐらいの地点、下津井公民館の辺りまで保護者の方が子どもを送って、全員が集合してから登校して行くというのも1つの方法だと思います。

その際、送迎した保護者に対して、基準を満たしていると通学支援としてガソリン代の支給をしているのを聞いたことがあるので、そういう方法もあると思います。

<委員>大室に住んでいる人のことを考えると、通学班の人数も本当に少なく、来年以降はうちの地域でさえも、うちの娘だけが1人で小学校に行くことになります。

岡山市内の知り合いの人が1時間かけて登下校しているのを聞いています。

大人数で通学すれば、少々長い時間でも登下校できると思いますが、人数が減ってきている中で、長距離の通学を含め、1人で歩かせるというのは安全面で怖さがあり、私も大室に関してはスクールバスを出した方が良くとずっと思っています。

やっぱり1人、2人で、低学年の子を通学させるのは怖いと思います。

猪も出没していますが、猪だけではなくて<sup>ひとけ</sup>人気がないという情報を得た不審者が現れる可能性もあるので、本当に通学支援をしていただいた方が安心感があります。

下校では、学童保育を利用している子は保護者が迎えに行くので安心ですが、学童保育を利用していない大室の子もいると思うので、帰りは怖いです。

もう登校班はどんどん少なくなっているので、せめて5年生、6年生とか高学年になるまでは支援をしていただいた方が、保護者の方は安心すると思います。

保護者が迎えに行けばいいかもしれませんが、仕事をされている保護者の子は1人で帰らざるを得ないので困ると思います。

<委員>風の道は不審者とか猪とかいう問題がありますが、現実的に考えると風の道は外せ

ない通学路だと思います。

猪の防護柵を設置するとか、地域に委託している草刈りの回数を増やすとか、風の道の整備等について市の方では検討されていますか。

<事務局>風の道の管理をしている児島支所建設課の方とは、いろいろな要望があるということの情報共有を始めている段階でございます。

まだ具体的な話は進んでいませんが、本日お伺いしたお話を踏まえまして、草刈りや、猪の防護柵設置等について要望していきたいと思っています。

<委員>現在、倉敷市立の小学校でスクールバスを出している学校はありますか。

<事務局>現在、バスを運行しているところはございませんが、人数が少なくバスが必要ないので、タクシーを運行している学校が1校ございます。

<委員長>現在、中学校3年生女子生徒2人が大室から歩いて通っております。

基本的に毎朝、校門に立ってあいさつをしていますが、いつも二人で顔を真っ赤にして登校しており、何分かつたと聞いたら、50分と言っていました。

夏場、チャイムぎりぎりになる二人が最後の坂道と校庭をダッシュして教室に入った後、朝の会の時に1人倒れました。

後で聞くと、朝食を食べずに登校しており、最後ダッシュして立ち上がった瞬間にフラットしたみたいです。

幸い怪我はありませんでしたが、そういうことがありました。

いろいろなご意見が出ておりますが、本日で決定というわけではないので、皆様からのご意見を踏まえて、事務局の方には検討していただけたらと思います。

よろしくをお願いします。

### (3) その他

<委員長>それでは次のその他ですが、本日、他に議事として取り上げるべきことはございませんでしょうか。

—— 意見なし ——

<委員長>他にないようですので、「3 報告」に移ります。

## 3 報告

### (1) 校名案の選定について(資料4)

<委員長>(1)校名案の選定について事務局より説明がございます。

<事務局>～資料4の説明～

<委員長>ありがとうございました。

それでは、ただ今の説明につきまして、何かご意見、ご質問がありますでしょうか。

<委員>下津井ブランドってことですね。

<委員長>個人的には、今は愛称が下中です。

児島地区では味中、児中、琴中、郷中と言っていますが、これが下学になると、ちょっと格好よく聞こえると思います。

愛称は下学がしっくりくるかなと思います。

<委員>校名が正式決定となり、皆さんにお伝えできるのはいつごろでしょうか。

<事務局>議決が12月13日になりますので、そこが正式決定ということになります。

<委員>ただし、昨日、記者会見が行われ、校名に関する条例案は公表されております。

記者会見では、校名については特に取り上げられてないですけども、たくさん出ている議案の中に、下津井学園という名前と、倉敷市で初めて義務教育学校という言葉が条例に入るといいうものも含まれております。

小学校、中学校、特別支援学校等がありますが、義務教育学校の設置は今回が市内でも初めてですので、関係する13もの条例について、義務教育学校という言葉を入れるようになります。

世の中に下津井学園ができて、今度開校する学校は下津井学園だというのは、12月13日には決まります。

<委員長>ありがとうございました。

## **(2) 校章の選定について(資料5)**

<委員長>それでは、校章の選定について事務局より説明をお願いします。

<事務局>～資料5の説明～

<委員長>ありがとうございました。

それでは、ただ今の説明につきまして、ご意見やご質問はございますでしょうか。

<委員>募集の際に「マークを考えてね」という問いかけの方がいいと思います。

<委員長>事務局の方から倉敷市内の事例とか準備していただけますか。

<事務局>はい、現在準備をしております、完成次第、学校に送らせてもらいます。

<委員長>まっさらな状態で子どもたちに投げかけると困ると思うので、事例を参考にすることができるようになれば、ある程度アイデアが絞られると思います。

<委員>その時、校章のコンセプトや由来が付け加えられていると、子どもたちもイメージしやすいと思います。

<事務局>校章の由来が分かるものに関しましては、説明を付けてお渡しするようにします。

<委員長>公立小中学校の校章のうち、大半は何十年も前に作成されているので、ライバルは新しく開校した県内の義務教育学校です。

体操服や帽子に格好よく入るような校章にしたいです。

<事務局>子どもたちに配る募集用紙に、込めた想いを記入する欄があれば良いと思います。

<委員>子どもたちがこんな想いで描いたということが分かり、選びやすいです。

<委員>宿題にすることで、おうちの方も声をかけてアイデアを出されると思います。

誰か1人が作るというわけではなく、それぞれが、まず校章のイメージを膨らませて、それらを組み合わせながら形を整えれば良いのかなと思います。

<委員>家庭としてみんなが参加するということはすごく意義があります。

選ばれても選ばれなくても、みんなで新しい学校について考える、この校章、モチーフを考えるという過程がすごくいいのかなと思います。

<委員長>ありがとうございます。

### **(3) 制服・体操服の選定について(資料6)**

<委員長>続きまして、制服・体操服につきまして、ご報告があります。

小学校の制服について下津井東小学校校長先生よりお願いいたします。

<委員>～資料6の説明(制服)～

<委員長>続いて、体操服の方については私の方から説明させていただきます。

～資料6の説明(体操服)～

制服や体操服について、何かご意見やご質問がございますでしょうか。

—— 意見なし ——

<委員長>他にないようですので、「4 その他」に移ります。

## **4 その他**

<委員長>報告等、議事以外について、何かある方はいらっしゃいますでしょうか。

<委員>現在、小中学校の閉校と義務教育学校の開校にあたり、下津井中学校で地域全体を巻き込んで、あらゆる世代が集まるようなイベントの実施を考えていますが、記念事業として、費用の助成や、市の後援をいただくことは可能ですか。

協賛の場合、一部の企業が負担するようになりますので、市から助成をいただいて開催できないかなと思っております。

<事務局>今まで、あまり例がないことをごさいます。

最近は小学校の150周年記念事業等がありまして、要望は数件お聞きしていますが、市が特別に補助金を出したり、何か整備をしたりしたことはありません。

<委員>近年、休校や閉校とした小学校がありますが、記念事業等において、公費で教育委員会が助成をしたことはありません。

先程の通学路の整備や通学支援、学校整備など、そういった点については、今後、全力でサポートしていきたいと思いますが、この閉校イベントに関していうと、現時点では正直難しいかなと思います。

<委員>分かりました。

<委員>現在、下西と下東で閉校準備委員会を立ち上げておりますが、それらの閉校式や、義務教育学校の開校式とは別で行うイベントということですか。

<委員>そういうことですね。

今、実行委員会が立ち上がっていて、あらゆる世代を集めて、町として1つになっていこうということで、みなさんに声掛けをさせていただく予定です。

<委員>現在行われている下津井中学校の校舎改修に併せて、体育館へエアコンを設置できないのか、保護者の中でも話題になっています。

最近は毎年どこかで災害が起こっていますが、下津井中学校の体育館はこれから何か災害があった時の避難場所になると思いますし、最近の夏は暑くて、部活動も暑さ指数が一定まで上がったら活動ができないと聞いています。

せっかく部活に入ったのに、バスケ同好会も練習できないことがありました。

エアコン代のためにソーラーパネルを付けるとか、今更遅いかもしれないですが、何かできないのかなというのが保護者の意見です。

そういう中で他地域の方にも下津井学園に魅力を感じてもらえるように、何かできないのかなということをお聞きしたのでお尋ねします。

<事務局>議会でもいろいろ全国的に避難所であるとか、先程の部活の話とかということで、体育館へのエアコンの設置が大きな話題となってきているのは事実です。

首都圏ではかなり普及しておりますが、全国的に見たらそこまででもないです。

特に岡山県下では、文科省が年に一度調査をしております、ちょうど9月末に今年度分が発表されましたが、約4%でした。

その前の年の岡山県下の設置率は1%未満でしたので、約4倍に増えていますが、その内訳はスポットクーラーの設置が多いです。

文科省が考え方を覚えて、スポットクーラーを設置した場合もカウントしていいですよということになり、今回の調査が行われました。

4倍に増えていますが、まだまだ道半ばで、倉敷市では、体育館へのエアコン設置の前に、まずは断熱化から取り組んでいるところです。

ただ、この1、2年かなり暑いというのはみなさん実感としてはあると思いますので、いろいろな方法の検討を始めており、鋭意努力中です。

<委員>是非、ご検討ください。

<委員長>他にないようですので、事務局からグランドデザインについてお願いします。

<事務局>～当日資料2・3の説明～

<委員長>下津井地区に開校する義務教育学校では何を特徴とするのか、現在学校で検討している具体的なイメージについてご説明します。

まず1番は地域学、下津井では「下津井学」、下津井を学ぶということ。

他の義務教育学校は英語を柱にしているところが多いですが、下津井はやはりこのエリアから大きく育てて欲しいという思いから、キャリア教育を柱にしたらどうかと考えました。

キャリア教育を学ぶのであれば、子どもたち自体を下津井活性カンパニーという会社にみたてて、生徒会長が社長となり、その会社を調査部、広報部、営業部に分けます。

会社組織のようにして、その中で子どもたちができることをやっていきます。

一昨年コロナの影響で中学校の職場体験ができなかった時に、下津井のグッズを作って、お祭りで販売するという活動をしました。

この時、本当に子どもたちは生き生きとしていて、業者の方とデザインについて折衝したりとか、価格を決めたり、実際お祭りで観光客の方に販売していて本当に楽しそうにしていました。

こういう活動が大きな経験になりましたし、このような活動を義務教育学校でやれたらいいなと思っています。

調査部では、下津井の歴史や観光、産業などをとにかく取材する。

従来の学校ですと、これを模造紙にまとめようとなりますが、それも2、3年するとネタが尽き、マンネリ化してきます。

しかし、昨今、動画投稿による情報発信が多くなっていますので、いろんなことを注意しながらになりますが、例えば、下津井の古い写真を元に現在の場所を探すとして、それを小学校1年生の子が、「ねえねえ、おじいちゃん。この写真どこですか。」と聞いて、まさにその活動を動画にするわけです。

子どもたちのそういった活動をすべて記録し、編集する中で、編集が得意な子も出てくると思います。

また、下津井で採れる魚介類を調査し、その調理方法や小中学生が魚をさばく様子を撮影すると、生き生きと楽しみながらやると思います。

それをきちんと動画として記録するのが広報部で、取材したことを編集し、ホームページやユーチューブで配信していきます。

調査部の取材を記録した動画に、テロップやナレーションを入れることで、どんどん編集技術は上がっていくと思います。

さらに、今後、慣れてきて何年後かに海外に向けて発信ということになっていけば、次は英語のテロップを入れてみようかということで、英語のナレーションを入れて海外に発信していくこともできます。

あとは下津井、ご存じのように見どころ一杯ですので、いろんな場所でとこはい節を踊って、それを動画編集したら、絶対にバズると思います。

SNSでは猫とかがいっぱい出てきますが、猫だけでもバズっています。

小学生が無邪気に追いかけるだけでも、下津井らしさが伝わるし、それを発信していくというようなイメージです。

再生回数を増やすという明確な目標があるので、どんどん子どもたちも主体的に取り組んでいくはずですよ。

あと、営業部としては、ここにPTAの方に協力していただいて、先程言った下津井のオリジナルグッズなど、いろんな物を販売します。

小中学生だけで売ると様々な問題がありますが、PTAバザーなどであれば利益が出て、特に問題にはならないので、そこは是非、保護者の方に協力していただきたいと思います。

地域の方との協力で作る、下津井活性カンパニーというものを考えています。

まだ案の段階ですので、いろんなアイデアを教えてくださいたいと思います。

<委員>それぞれは単年度制ですか。

<委員長>中学生は部門に分けることができますが、小学校1年生を3つに分けることができませんので、担任の先生がどう絡んでくるのが重要になります。

異学年が一緒になって地域に行き、インタビューするのは1、2年生になりますが、聞き取るのはやはり上級学年でないといけないと思います。

県立図書館に下津井コーナーができておりまして、そこで少し前の下津井の写真が載った良い本に出会いましたが、文章は角田さんでした。

すばらしい本で、今は古本でしかないと思いますが、何とか入手したいです。

いろいろな活動ができそうです。

<委員>特色が分かりやすく、良いと思います。

例えば、倉敷市でもPBL（課題解決型学習）とかいろいろ取り組まれていますけど、そういうものを取り入れると、保護者からの印象もより良いものになってくるのかなと思います。

目を引く言葉があったら、どんな学習だろうと興味を持つようになり、分かりやすいと思います。

<委員長>子どもたちの動画を見て、観光客が訪れて、訪れた観光客にインタビューをして、また動画を作成することで、どんどん体験を重ねることができるのではないかと。英語を話せる子を育てるのも良いですが、あらゆる翻訳ソフトを使いこなせることも、今後は必要だと思います。

<委員>下津井地区に開校する義務教育学校の特色は、いつ発信しますか。

保護者には「統合するだけでしょ」と思っている方が多く、私はこの会議に入っているので「おもしろくなりますよ」とずっと伝えていますが、伝えきれていません。小学生の保護者、既に受験で動いている方もおられると思うので、1日でも早く発信をしていただかないと。

こういうことをしたい、こういうこともしたいよ、というビジョンがほしいなと思っています。

<事務局>今、現下津井中学校の校長先生がご説明された案については、我々教育委員会も事前に聞いておりますし、現時点では一つの選択肢であると思います。

ただ、学校の教育課程というのは、教育課程の編成を、その前年度の1月までに教育委員会に出して、教育委員会がそれを承認するという手順がありますが、さすがに来年のそういう時期にアピールするのは遅すぎる。

しかし、開校1年前、来年4月1日からの3校の体制が開校の準備をする職員の集団になると思っていますので、最終的には、その先生方でどんな学校にしていくかということについて、決めていかなければいけないと思っています。

ただ、1年間では間に合わないので、今のメンバーで、現時点の案も含めて、広く意見を集めながら、作り上げていけばいいのかなと思っています。

夏は過ぎないと固められないと思いますが、秋口とか、寒くなる前ぐらいに、学校の内容がおおよそ決まりましたと言えるのではないかと思っています。

実際学校現場としてはどうでしょうか。

<委員長>確かにそうですが、小学生がどう変わるのかは僕にはイメージできていないので、これは本当に大枠です。

現校長の案にはなりますが、必要があればいつでも説明に行きます。

<委員>僕もどんな風になるのかと尋ねられることがとても多いので、1日でも早く学校の特色について、発信をお願いします。

今おっしゃられたスケジュールだと遅いと思います。

<事務局>年度が変わって以降、できるだけ早い時期に方向性はお示しできるように、先生方や、この準備委員会の中でも相談させていただきたいと思います。

<委員>たよりに他の義務教育学校の事例などを載せることはできないのでしょうか。

<委員>今、事務局から発言がありましたが、やはり義務教育学校という言葉や、下津井学園という校名だけでは、どんな学校になるかが分からないので、既に開校している義務教育学校の事例などをもっと地元の方にお伝えできるように、教育委員会の事務局が皆さんにもご相談させていただきながら、取り組んでいきたいと思えます。

<事務局>校長先生が良い土台を作ってくださいっていますので、これを肉付けするようなアイデア等があったらどんどん伝えていただき、その中でより良い物にしていけばいいのかなと思っております。

<委員長>よろしくお願ひします。

<委員>逆にこんなことはできないのかと、事務局に言っていた方がいいと思えます。できないことはできないと言うと思えますし、できることは、それを目指してどういう準備があるのかとかいう話になっていきますので。

<委員長>ありがとうございました。

長い時間になりましたが、事務局へお返しします。

<事務局>委員の皆様、ありがとうございました。

本日いただいたご意見等を踏まえ、引き続き義務教育学校の開校に向けた準備を進めてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願ひします。

最後に、事務連絡を申し上げます。

次回の開校準備委員会は、2月の開催を予定しており、別途、日程調整表を送付させていただきますので、内容を確認後、学校適正配置推進室への提出をお願いいたします。

それでは、これをもちまして、「第3回 倉敷市下津井地区義務教育学校開校準備委員会」を閉会します。

本日は、長時間にわたり、大変ありがとうございました。

以上